

はっけん

2017年 7月発行
九州手話サークル
連絡協議会

【掲載内容】

青山新会長 新任挨拶
中元前会長 退任挨拶
幹部会議 報告（熊本県）
評議員会議 報告（佐賀県）
研修会午前の部 報告（福岡県）
研修会午後の部 報告（長崎県）



九州手話サークル連絡協議会 会長就任挨拶

会長 青山 寛六

私は、平成4年熊本市ろう者福祉協会主催の手話通訳者講習会を修了し、平成21年から、熊本県の手話サークル「わかぎ」の会長をしています。

昨年、中元教博前会長は、「辞任したい」ではなく、「辞任する」と宣言されました。そこで、理事会では、中元会長辞任の前提で、協議を重ね、私を会長候補者として提案することとなり、評議員総会で承認され、青山会長が誕生しました。

私は、九手連の会長として活躍された中元さんしか存じ上げませんが、「なんとダンディーな方だなあ」、「私は、足元にも及ばないなあ」と思っていました。

中元さん、10年間の会長役、お疲れ様でした。中元さんの足元に近づけるよう頑張ります。ご指導・ご鞭撻、よろしくお願いいたします。

手話サークルの果たすべき役割も時代の変化にあっているのか、検証が必要ではないかと思っています。

また、関係団体と胸襟を開いて協議し、一步一步、確実に取り組んでいきたいと考えています。みなさんのご協力のほど、宜しくお願い致します。

九州手話サークル連絡協議会 会長退任挨拶

中元 教博

先日の6月24日、大分で開催されました九手連定期評議員総会にて九手連会

長職を退任しました。

平成 11 年から九手連理事になり、平成 19 年からは(前)村本宗和会長の後を引き継ぎ微力ではありましたが、皆さまのご支援・ご協力をいただきながら、大役を終え後任に引き継ぐことができました。

在任中は、多くの方々、仲間と語り合い、触れ合いそして、私自身をも育てて頂きました。本当に、ありがとうございました。

後任には、熊本県の青山寛六氏が選任されました。私同様、皆さま方のご理解・ご協力を賜り、共に活動を盛り上げて頂ければ幸甚と存じます。

今後は、地元大分での活動と、九手連では相談役として当分の間は関わってまいります。まだまだ微力ではありますが、心身ともに元気ですので、引き続き走り続けて行きたいと思っております。また、何処かでお会いする機会もございましたら、何かの折には御声かけ頂ければと思っております。本当に長い間、お世話になりました。

皆さま方の今後益々のご健勝とご活躍を御期待し、退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

幹部会議

報告者 熊本県(天草わかぎ) 吉野 綾

各県の代表が集まり、「組織強化について」とのテーマのもと、[県手連の運営の在り方、役員選出][会員の減少や休会、県手連そのものの組織強化]について協議が行われました。

[県手連の運営の在り方、役員選出]

運営の在り方は地域により多少差はあったものの、役員選出における“なり手がいない”という悩みはどの県も共通していました。輪番制を取り入れている県もありましたが、公平性が保たれる反面、休会するサークルがでてきてしまったりするなど、どの方法も一長一短あるようでした。

[会員の減少や休会、県手連そのものの組織強化]

今回の報告では、養成講座の受講生は多くの会場で減少傾向にある様でした。ただ、地道な広報活動や、支部やサークルとも協働して受講生を巻き込んだ行事の運営などが功を奏し、受講生増につながった地域もありました。サークルへの入会資格も様々で、養成講座修了生に限定して焦点を絞って活動するサークルや、間口を広くして子どもの入会も認めて広く活動するサークルがありました。

各地域の取組は様々ですが、サークルは聴こえない人が気軽に集まれる場所でありたいということ、聴こえない人と「共に歩む」ことはぶれてはいけない

こと、を最後に確認しあいました。

全体を通して、各サークル、各県手連、同様の課題を抱えているということ
を改めて感じました。長期的な視点でとらえること、各地での好事例の中から
自分の地域性に合ったものを選定し、地域で共有し、自分のサークルや県手連
で実践につなげるための具体的方策を考えることが必要だと思います。

会議は限られた時間ですのでどうしても情報交換がメインになってしまい
ちなので、フレームワーク等を用いて具体的な行動目標を決めるまでを会議の
目標にすると面白いかも まずは地域のサークルで取り組んでみようかな 等
と思いながら、会議を終えました。

参加された各理事のみなさん、すでに各地域で行動を起こされているでしょ
うか。私もまずは具体的な行動目標を立てて取り組んでいきたいと思います。
「はっけん」を読まれたみなさん、非常につたないレポートですが、各地での
取組の参考になれば幸いです。

評議員会議

報告者 佐賀県 山口 美由紀

6月24日(土)大分県身体障害者福祉センターにて、九手連の評議員会が開
催されました。

各県の評議員 25名の出席を得(委任4名)、議長には大分県の山口評議員が
選出され議事の進行がなされました。また、評議員会に大分県手連より4名の
傍聴があり、来賓として大分県聴覚障害者協会から西村務理事長が出席され、
今後も九州三団体で手話言語条例や合理的配慮に向けた取り組みを継続し、聴
覚障害者の福祉の向上に努めていきたいとお話がありました。

議事については、会計監査より決算・予算の項目について質問があり、執行
部の方で検討がなされて再度提案、承認されました。その他、事業報告・事業
計画案は原案どおり承認されました。出席者からホームページの運営等につ
いて要望や質問があり、今後の活用については、地域の行事等の書き込みも大
歓迎との回答がありました。

また、今回は大分、熊本、宮崎の理事が交代されました。同時に、新会長に
熊本の青山寛六理事が就任され、理事8年、会長10年という長期にわたり九手
連の運営にご尽力いただいた大分県の中元教博会長が相談役とのことでした。

九手連のみならず、三団体の連携強化など多方面にわたり広い視野で熱心に
取り組んでいただいた中元会長には、心から感謝申し上げます。

講演 「ろう者から学ぶ手話～その魅力あることば」

講師 吉武 英二氏（一般社団法人 福岡市ろうあ協会副会長）

吉武さんは、昭和 22 年福岡市博多区(現在地)生まれ、博多育ちで、小学 1 年の時に、ろう児童入所施設「新開寮」に入所されました。

新開学園の名称は、吉武さんが卒業されたあとに、改称されたようです。ちなみに、福岡ろう学校が渡辺通りにあった時に、近くの新開町できたので、新開寮と付けられたそうです。

ろう学校では、厳しい口話教育でした。小学 1 年から 3 年まで発語の訓練がありコップにストローで息を吹きこんだり、水を含んで喉を叩いたりしていました。だから、小学 3 年の時に 1 年生の教科書を使うので、一般の小学校より学業が遅れていました。先生の口元が（わかりましたか）と動いたら、中身は分からないけど（わかりました）と口を動かしていました。なぜなら（わかりません）と言うならば、また分からない授業を繰り返されるからです。

しかし新開寮では、先輩から手話を教えていただき、寮母さんや先生方も手話で話しかけて頂き、多くのことばを覚えました。だから、ろう学校の先生方と新開寮の先生方で、摩擦もあったようです。

新開寮での行事では、クリスマスに米軍の慈善事業で、プレゼントを頂いたり、米軍宿舎に遊びに行ったりしました。養護児童施設対抗の野球大会に参加して、九州大会では、大分県と優勝争いのしのぎを削っていました。

新開寮の入所期間は、義務教育期間内でしたが、県と交渉していただき、高等部を卒業するまで、いました。高等部の時には、東京のパラリンピックに参加したり、横浜で開催された第 1 回の障害者は、陸上大会に出場しました。ライバルは千葉県の大学生だったと思いますが、長身で足が私の腰より長く、必死に足を動かしたけどかなわず、100M 200M共に 2 位に甘んじました。

福岡県は全国で初めてろうあ者が自動車の運転免許を取得することができました。今まで、「九州の田舎っぺ」とバカにされたりしましたが、運転免許を見せると態度も一変しました。運転免許が取れたおかげで、就職先ではトラックの運転を担当したり、ドライブに行ったり、視野も広がりました。

昭和 45 年から、福岡県で手話奉仕員養成講習会が始まりました。当時は通訳者は居なかったので、声が出せるろうあ者を選んで行いました。もちろんテキストも無く、ガリ版印刷でプリントの様なものを作っていました。

「手話は私にとって命そのものです。聞こえる人は手話の世界から離れるこ

とはできますが、私たちは死ぬまで手話と共に生きなければなりません。」の言葉で締めくくられました。

随所に面白い表現を交えてお話しをして頂きました。

九手連研修会(午後の部)報告 報告者 長崎県(南島原手話サークル)草野 徳

講師：持田 隆彦氏 (京都市手話学習会「みみずく」)

講演：「私と手話と手話サークルと」～みみずく駆け抜ける青春～



手話学習会「みみずく会」の誕生は昭和 38 年。手話を学んで、ろうあ者の耳代わりをしよう！ みみがつく“みみずく”が、サークルの名称になったそうです。

持田さんの手話との出会いは、職場にろうあ者が 3 人採用され指導担当者になり、ろうあ者に無理やり連れて行かれたのが「みみずく会」でした。

初めての活動は、ソフトボール大会参加。「親子の集い」。8ミリで手話を撮影、音声語変換に挑戦です。

当時の映像には、若々しく笑顔に包まれた交流会の様子が有りました。そんな活動の中、親子から見えてきた問題として・・・お祖父さんやお祖母さん達が、ろうあ者の親を除け者にしようとしたり、子供を隔離しようとする事もあったそうです。授業参観に行けない、行かせてもらえない親も居たそうです。そして子供達もコミュニケーションの問題や、取り巻く環境・いじめなどから、リストカットする子供もいたと聞きました。

昭和 40 年の京都府立ろう学校高等部生徒の授業拒否と「三・三声明」発生します。そして昭和 45 年から実施された、厚生省の手話奉仕員養成事業の礎となったのが、昭和 41 年厚生省社会局厚生課から“みみずく会”への照会(質問)状に対する回答です。

養成機関の必要性や、手話通訳活動は行政機関の保証が必要なこと、手話奉仕活動によって得られた成果を報告してあり、それが京都の「ろうあセンター」づくりが始まり、大きなろう運動の流れが出来たのだと思いました。さてお互いが理解しあうために 3 つのキーワードがあるそうです

「暮らし」を基本的に見据えること。

共に歩むこと。

互いに高めあうこと。(手話を学ぶのではなく、手話で学ぶことが大切)

・・・このことに関連して、こんな話をされました。

ある、ろうあ者の家に行くと時計屋さんのように、壁掛け時計がいっぱい有りましたが、その人(ろうあ者)は「ちょうど良かった、時計が壊れたので買って来てくれ。」と頼まれるそうです、今まで壊れると買い替えていたのだそうです。

その人に修理した方がいいよ、お金も節約できると説明しても、なかなか理解してもらえません。そこで一緒に時計店に行き修理して貰うことに、10分で修理完了した為、本当にびっくり驚かれたそうです。その後、訪問の度に「ちょうど来た」と笑顔で手話表現するそうです。

私は、このやり取りに、ろうあ者の手話表現「ちょうど来た」に素晴らしい信頼関係を感じました。私も3つのキーワードを心に刻み手話の勉強を進めたいと思います。講師の持田さん、講演を支えていただいた皆様方、本当にありがとうございました。

[編集後記]

7月5日の福岡県と大分県を襲った豪雨で、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、6月10日に皆様に初めてお会いして「宜しくお願いします」と挨拶をし、毎日のごとく、はっけんのが頭のかたすみに留まっていたのですが、なんとか7月発行にこぎつけました。

有り難うございました。今後とも宜しくお願いします。

九州手話サークル連絡協議会

事務局 〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和34-2

森 保夫

発行責任者：青山 寛六

広報担当者：町田 京子(大分)

発行年月日：平成29年7月31日